

大城ひかるのベトナム

通信

-10-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



ホの撮
こちで
スマで
店ちこ
に出あ
る若者
の光景
が（筆
影）

アジアの中で親日国は少なくありませんが、中でも群を抜いているのがベトナムです。私の見立てでは、ベトナムは台湾・タイに次ぐ世界第3位の親日国。しかも彼らの日本好きたるや盲目的ですらあり、「日本製品は素晴らしい」「日本人は親切で勤勉」「日本は清潔で美しい」といった美辞麗句を聞くのも一度

や二度ではありません。そのたびにむず痒い思いをし、心の中では「それでもないけど・・・」と呟いていたのですが、昨年久しぶりに戻った日本は確かにベトナム人の言う通り。人は親切で街はきれいで、行政システムは効率よく回っています。技能実習生を筆頭にベトナム人が日本へ向かう背景には、第一にこのような日本へのあこがれがあります。

もう一つの大きな理由はベトナムの労働環境です。2023年現在、ベトナムの人口は約9700万人で、15歳以上の労働人口は5650万人です。いずれも日本より若干少なめというところで、しかし企業数をみる

親日国ベトナムの労働環境

と、日本の367万社に対し、ベトナムはたった75万社しかありません。働き手が多いにも関わらず、働く場所は圧倒的に少ないのです。

さらに労働集約型の仕事が多く、採用枠は18歳から30歳ぐらいまでと限られます。このため、特別なスキルがない限り30歳を超えて失業してしまふと、再就職の可能性はまずないと断つてもいいでしょう。ベトナムでは今後10年間で最大300万人の失業者が生まれると予測されていますが、その90%以上が30代です。「30代の失業は今、大きな社会問題となっています。」

子どもは「大きくなったら何になりたい」と聞かれ将来の仕事を意識しながら育ちますし、小中学校のキャリア教育も盛んです。高校で就職する場合は先生方が世話を焼いてくれ、ほとんどの学生は卒業前に就職先が決まります。

一方、ベトナムでは子どもは将来の仕事より目の前の勉強に集中することが求められます。高校・大学で就職をあつせんするのはまれです。ほとんどの学生は卒業直前もしくは卒業後に「さて、これからどうしよう」となるのです。大学で日本語専攻だった同僚の話ですが、大学4年になっても日本語を使ってどんな仕事ができるのかわらなかつたそうです。就職の第一歩は民間の人材バンクへの登録でした。

から、高校生はなおさらでしょう。働く場所は少ない、何をしたいかわからない、どのように仕事を探せばいいかわからない、スキルもない、しかし生活しなければならぬからお金は欲しい・・・そんな若者がベトナムの地方にはとても多いのです。

圧倒的な買い手市場では、就職あつせんとして仲介者が登場します。求職者は口利きを期待して紹介料を支払うのですが、人気の仕事は相場が上がり、何人も仲介者が必要な場合もあります。技能実習生が多くの借金を背負って来日する背景には、このようなベトナムの労働環境が複雑に絡み合っているのです。

ご意見・ご質問をお聞かせください。oshino@kaizen.edu.vn

キャリア教育の欠如も影響しています。日本の大学生ですらこうです